



57年前の聖火リレーと 令和の聖火リレー



昭和の聖火リレー 3区が始まる当時の有田町役場前の様子。上部の横断幕は有田工業高等学校デザイン科による。(田中家提供)

令和3年5月9～10日、新型コロナウイルスまん延防止のため各地で縮小や自粛が相次ぐなか、「東京オリンピック2020」の聖火（以下、令和のリレー）が佐賀県に入り、有田町は9日16時頃から30分ほどをかけて通過しました。そこで今回は、当館の収蔵資料をひもとき、昭和39年（1964）9月15～16日に行われた聖火リレー（昭和のリレー）時の様子を甦らせ、その違いをみてみたいと思います。

昭和のリレー時、県は全43区間を設け、1区間を正走者1名と2名の副走者、中高生や少年団などから選出された20名の随走者が走りました。正走者はすべて青年団から選出され、それは全国でも佐賀県独自の試みだったそうです。

長崎県から来た聖火を最初に受け取ることになったのが、西有田村原明の中継点で、そこから柿右衛門入口までが1区、有田町役場前（現在の東出張所跡地）までが2区、有田タイル前（現在の泉山体育館）までが3区、山内町狩立橋までが4区で、その後聖火は山内町、武雄市、北方町、大町町、江北町、牛津村、久保田町を通過して佐賀市で一夜を明かし、翌16日に県庁前から神埼町、三田川町、鳥栖市、基山町を経て福岡県へ引き継がれました。当時は道に沿ってリレーを継続したため、聖火が通過しない市町村も多く、該当した市町村に多くの観客が訪れています。



1区から2区への聖火引継ぎ。
(柿右衛門入口：岩尾家提供)

沿線に該当した市町村は準備に大忙しだったようで、歓迎横断幕を用意し、沿道は花を植え美化に務め、各中継点では湯茶接待を整え、小中学校の鼓笛隊やブラスバンドも準備

に余念がなく、皆一丸となって聖火を歓迎していたことが分かります。

さらに、昭和のリレー直前に行われた1区～4区間のリハーサルでは、本番同様14時に出発し、1分約200mの速さで、予定通り14時47分に到着して関係者をわかせています。

このように、令和のリレーとは走者の選出方法や人数も、走るルートや速さも、大分異なっていたことが分かります。しかし今回の有田町は昭和のリレー3区のルートと大部分が重なり、57年の時を経て同じ道を進んだのかと思うと感慨深いものがあります。

さて、ここで昭和のリレー当日の様子について、残された日記などの記述からそのままご紹介します。「オリンピックの聖火、有田町を通過する一瞬、感激に涙にじむ。学校のブラスバンド、打振る日の丸歓迎の旗、拍手声援と共に聖火は一路東へと去り行く」、「聖火リレーで町内日の丸一杯、嬉しい」。この日は蒸し暑く、にわか雨が降って関係者をやきもきさせたようですが、日記からは聖火に対する畏敬、走者への激励、開催地であり日本人としての誇りといった感情が読み取れ、熱気あふれる様子が眼前に浮かぶようです。

残念ながら令和の聖火リレーは、新型コロナウイルスというパンデミックの影響のもと、今までの常識が一転し、声援禁止、来場規制といった自粛を余儀なくされました。それでも動画配信という形で、現地になくとも様々な地域の人々と共に観戦・応援が可能になり、また、寄せられたメッセージなどからは、走者への激励や賞賛に加え、SNS等の普及によって一般的になった共感という感情もみてとれます。歴史上でも稀有な事例となった令和の聖火リレーの姿を、どうぞみなさんの記録と記憶に留めて下さい。（永井 都）

して和紙の生産が盛んでした。

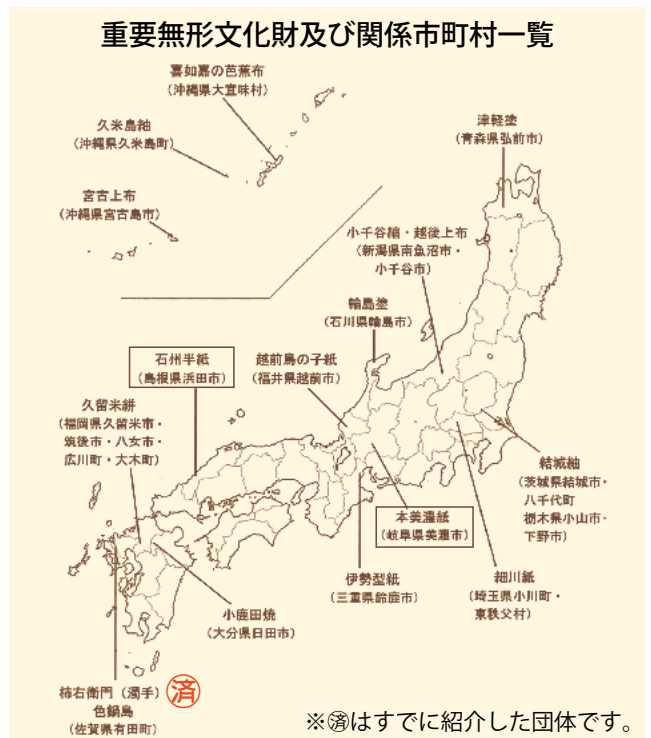
しかし、明治維新以後の洋紙の普及や、戦中戦後の物資不足、高度経済成長政策による農村人口の流出などにより、手漉きの製紙家が減少していきました。

そうした中で、伝統的な技法を文化財として保存するため、文化庁の和紙の実態調査が始まり、昭和44年に重要無形文化財の指定に至りました。

○近年新しい試みや、伝統を守るうえで心がけていることなど

石州半紙技術者会は、後継者への技術伝承活動として、紙漉きの技術は元より、和紙原料の原木栽培から皮剥ぎ加工までの一貫した研修を行っており、将来に渡り地元産の石州楮を確保するための事業も進めています。

これまでに若手の後継者が育ってきていることは、「石州半紙」の未来にとっては明るい材料ですが、現在では、こうした若手とともに日本の和紙文化を後世に伝えるべく努力を重ねているところです。



伝建かわら版 令和2年度 保存修理事業報告

平成3年度に有田内山伝統的建造物群保存地区は、国から「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、以後、国、県の補助を受け、所有者に修理費用の一部を助成してきました。なお、令和2年度に実施した保存修理事業の概要は次のとおりです。

●赤絵町・庄村健家 (屋根葺替、建具修理)

セメント瓦は風化が激しく、下屋の軒天は傷みのひどい箇所があり、玄関建具は建付けが悪くなっている状況でした。そのため、屋根瓦の葺き替え、下屋軒天、玄関建具の修理を行いました。



Before

After

●上幸平・吉浦准子家 (外壁改修、建具修理)

正面外壁にはクラックが入り、漆喰の剥離もありました。一階掃き出し窓の敷居は腐食が進み、修理が必要で、建具は建付けが悪くなっていました。そのため、漆喰の塗り直しをはじめ、それらの修理を行いました。



Before

After

●上幸平・浅井武史家 (外壁改修、建具修理)

外壁は後に貼られた鉄平石の重さで、土壁や窓の横架材に影響を及ぼし、軸部の不陸や土壁が剥落し、修理が必要でした。これらの修理とともに古写真をもとに正面外壁を黒漆喰に塗り直し、鉄製の手摺を復元しました。



Before

After

●上幸平・篠原文也家 (外壁改修、雨樋取替)

外壁二階の窓廻りは汚れがひどく、クラックが現れているところもあり、銅製の雨樋も腐食がひどく修理が必要でした。正面の北面と東西面の外壁漆喰の塗り直しと既存木部の塗装、雨樋の取り替え工事を行い、二階窓のアルミサッシを木製建具に復元しました。



Before

After

●お問い合わせ
0955-43-2899

伝建地区での現状変更(新築、外観の変更、解体等)には申請が必要です。規制の内容や地区の範囲、修理事業等に伴う助成内容等については、有田町教育委員会文化財課まで、お問い合わせください。
令和4年度の事業を希望される方は、3年8月末までに計画書の提出が必要です。助成の内容や手順などについてはお問い合わせください。



改訂版の「展示ガイドブック」ができました

有田町文化財課では、近年所管する6つの施設の常設展示について見直しを進めており、昨年度は有田町歴史民俗資料館東館及び有田焼参考館の展示替えを行ったことは、館報129号で紹介したとおりです。その展示替えした内容を踏まえた改訂版の「有田町歴史民俗資料館東館・有田焼参考館展示ガイドブック」が、今年3月に完成しました。

そもそもこのガイドブックは、平成24年3月に、有田焼参考館の展示を大幅に変更したこと、当時、当館の展示ガイドブックの要望が多く寄せられていたことから、できるだけ手ごろな価格で、有田の窯業史が簡潔にわかるようなものを作りたいという思いから発行したものです。発行後9年が経過して、内容がそぐわなくなった点もあり、今回の展示替えを契機に、コンセプトはそのまま、改訂版を作成いたしました。

今回のガイドブックの内容も、常設展示通り「くふう」「つくる」「くらす」「あゆみ」の4つの章で構成されています。有田焼の歴史を技術や生産体制の“くふう”の面から考察した「くふう」、江戸時代の『有田皿山職人尽し絵図大皿』（県指定重要文化財・有田陶磁美術館蔵）に描かれた製作工程に沿って、各工程で使われた道具類を紹介した「つくる」、磁器産業の専業地として形成された“有田内山地区”の特異性を示した「くらす」、そして窯跡などの発掘調査資料を通じて有田焼400年の歴史を浮き彫りにした「あゆみ」というそれぞれの章をできるだけ分かりやすくまとめました。有田焼の歴史を通観できる小冊子となっていますので、ぜひ手にとってご覧いただき、お役立ていただければと思っています。

書名： 有田町歴史民俗資料館東館
・有田焼参考館展示ガイドブック
規格： A5版 36ページ
価格： 300円
販売場所： 有田町歴史民俗資料館東館



坂の下遺跡の案内板をリニューアルしました

有田町山本地区に所在する「坂の下遺跡」は、食料としたドングリ類や、それを保管する貯蔵穴が21基もまとまって発見された縄文時代の遺跡です。また、昭和42年（1967）の第1次発掘調査で出土したドングリの一つが、約4,000年の眠りから目覚めて発芽し、「縄文アラカシ」として親しまれていることでも有名です。その後、昭和46年（1971）7月10日には町の史跡に指定されています。

坂の下遺跡には、もともと説明板が建っていましたが、昨年台風で倒壊してしまいました。そこで、文面や写真を一新し、装い新たに建て直しました。また、その横には坂の下遺跡の目印となる標柱も新たに追加しました。現在、遺跡のあった場所は田畑になっていますが、有田町の縄文時代を代表する坂の下遺跡に、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

ほかにも、坂の下遺跡と同じ地区に所在する、町指定天然記念物「狩場のタブノキ」の標柱も建て直しています。



坂の下遺跡の説明板と標柱



狩場のタブノキの標柱

季刊『皿山』

通巻130号（令和3年6月1日）
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目4-1
☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185
URL: <http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>